

第 15 回研究評価委員会（議事概要）

日 時：2024 年 2 月 20 日（木）16:00～17:00

場 所：NIRA 総研大会議室およびオンライン

- 議 題：
1. 2024 年度研究事業の成果について
 2. 2025 年度研究事業計画について

研究評価委員：嘉治 佐保子 慶應義塾大学経済学部教授
芹川 洋一 日本経済新聞社客員編集委員
福川 伸次 一般財団法人 地球産業文化研究所顧問（ご欠席）

N I R A： 金丸会長、谷口理事長、神田理事 兼 研究調査部長、
大河内監事、早川総括管理部長

資料 1 2024 年度研究事業の成果について

* 研究評価委員より出された意見は、以下のとおり。

1. 2024 年度研究事業の成果について（資料 1 参照）

神田理事兼研究調査部長より 2024 年度の研究事業について説明があり、これを受けて委員からは、日本が抱える重要な政策課題に幅広く積極的に取り組んでいるとして、研究事業に対して高い評価をいただいた。あわせて、より幅広い層への研究成果のアプローチや、目まぐるしく動く現状に即したテーマでの研究に対する期待が表明された。

なお、個別の研究課題についての主な意見は、以下のとおりである。

- ・ 多岐にわたるテーマに取り組んでいることは評価できるが、NIRA の存在意義やターゲットをしっかりと意識をして、研究テーマの設定や成果のアプローチ方法などを考えたほうが良いかもしれない。（嘉治委員）
- ・ 社会が分断し、若い人々はテレビや新聞を見なくなっている。こうした若い人々にも政策にかんしフォーラムではテーマ別セッションを設けて、少人数で議論を行い、10 分のダイジェスト版として動画にまとめて公開したことは大変評価できる。最近是人々のアテンションスパンが短く、長い動画は視聴されない傾向がある。（嘉

治委員)

- ・ ワーキングペーパーはそれぞれ面白い分析をしているので、それを具体的な政策につなげられるような投げかけがあるとよい。(芹川委員)
- ・ わたしの構想第 74 号「外国人の受け入れ、実態を踏まえた議論を」は面白い問題提起をしている。外国人比率が 2 割を超えている大泉町は、日本の中でも最先端を行っていると言える。もっと掘り下げるとよいだろう。(芹川委員)

2. 2025 年度研究事業計画について

神田理事兼研究調査部長より 2025 年度の研究事業計画について骨子の提案があり、これをもとに今後の NIRA 総研の研究事業計画に関する議論が交わされた。

研究評価委員から出された主な意見は、以下のとおりである。

- ・ 日本の国力低下が著しい中で、日本再生への道筋が最大の関心事。ビジョンの提示が必要。(芹川委員)
- ・ 若い人たちは、国力という大きな話をされても、自分がどうしたらよいかわからない。彼らの関心は、出口の見えない今の状況で、どうしたら突破口を見つけられるのか。若い人向けに、焦点を絞って、具体的にどうしたらよいかを示すのも必要。(嘉治委員)
- ・ 英語での発信については、海外の高名な学者の方にもご参加いただくと、世界での NIRA のプレゼンスが高まるだろう。一方で、日本人向けの発信もおろそかにならないよう気を付けなければならない。(嘉治委員)

以 上